

—キリスト教の立場から—

日本基督教団 小川教会牧師 長尾邦弘さん

キリスト教の土台は「平和」

キリスト教の土台となるのは、すべての命は神に与えられたものであり、人間は神が創造された世界に生かされている存在なのだという認識です。神が創られたこの世界は本来ならばすべてのものが調和しているのです。聖書では、この世界が調和した状態を平和であると考え、神の国と呼びます。ところが人間は自らの願望や欲望、あるいは幸福の追求のために、他者から奪い、踏みつけ、傷つけ、神を忘れて自分勝手に生きるという過ちを犯します。そこで、神の子であるイエス・キリストに人間の罪のすべてを負わせ、犠牲とすることによってこれらの罪を赦されました。ここに神の愛が表れています。

キリストの「愛」

イエス・キリストの愛とは、この、自分自身の命を犠牲にするという愛です。そしてこのように神に赦され、愛されているのだから、人間同士お互いに相手を尊重し、受け入れあおうということにつながっていきます。それこそが平和への第一歩であるということです。

日本基督教団の過ち

さて、私が所属している日本基督教団は第二次世界大戦中に大きな罪を犯しました。戦争に賛成、協力しました。さらに、信仰を貫いて逮捕、投獄され、解散させられた教会や牧師たちを支えるどころか、自分たちの安全のために切り捨ててしまいました。占領下にあった朝鮮や中国、東南アジアの教会に対しても、神社参拝を強要するということもしました。また、日曜学校に集まった子どもたちに「この戦争は正しい戦争だ」と教えたり、戦争を祈ったりすることもさせました。

二度と同じ過ちを犯さないために

戦後の日本基督教団は、「第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白」をあらわして、神の憐れみと隣人の赦しを求めました。戦争の大きな犠牲の上に与えられた、主権在民、基本的人権の尊重、戦争放棄を土台とした日本国憲法。これを改悪するという過ちを犯さないように、九条の会の存在は非常に大切であると思います。私もこの「おがわ町九条の会」の働きを支え続けたいと思います。また神に罪を赦されて生きる1人のキリスト者として、このことにたずさわることによって、時代を見張るという役割を果たしていきたいと願っています。



“とても有意義な集いでした”

会場のアンケートから

- ・とても良かった。いつもに増してコーラスが入って力強く感動的だったと思います。
- ・今年になって体調がすぐれませんでした、今日元気を頂きました。
- ・どの宗教でも根本は一つ。人間としてのやさしさと。生まれてきた意味を考えさせられました。
- ・お二人の誠実な人柄に感動しました。仏教もキリスト教も、目指すものは「平和」ですね！
- ・ものの良い悪いについて。また努力が必要のお話し。また調和の事。人を陥れないこと。色々思うことばかりです。
- ・戦争からは真の平和は生まれないと思いました。
- ・とても素晴らしい会でした。励みになり、また元気を頂きました。
- ・世界、特に中国、ドイツ、フランス、イギリス、USA の 20~30 代の若い人の、戦争についての考えを聞きとって頂きたい。空想は怖いので。
- ・思いがけず福引きに大当たり。良い物を頂きました。ありがとうございました。
- ・クッキーが当たりました。おいしそう！

9条サロン

子ども手当の支給と高校の授業料の無償化

新政権によって、子ども手当の支給と高校の授業料の無償化がはかられます。確かに財源の問題や、子どもを持たない世帯の不公平感など、課題はたくさんありますが、「子育て」を「社会」の責任として果たしていこうという考え方は、画期的なことだと思います。日本では明治維新以来、教育に対する責任は親にあり、その投資は本人に還元されるもの、言い換えれば、教育は個人の立身出世の道具という教育観が支配的でした。この教育観を変え、社会が子どもを育て、その投資は社会に還元されるもの。教育は「個人の立身出世の道具」ではなく、広く社会の有為な人材を育てることこそ教育だという、教育観です。しかも、親の収入や出生による差別化を図ることなく、すべての子供に等しく支給されることに意味があります。憲法や旧教育基本法に規定されている「教育の機会均等」「法の下の平等」「人格の完成」等に則って、すべての子供のすべての可能性を前提にしている所に大切な意味があるのです。

憲法の「義務教育はこれを無償とする」という文言には、修学旅行費から鉛筆一本まで、教育にかかる一切の費用は、国が負担すべきであるという「理想」が込められていたはずですが、この理想の実現に旧政権は60年以上着手してこなかったと言えるでしょう。実はこの「理想」が「現実」である国々の方が国際的には主流です。日本の教育に対する公金の支出はOECD 30カ国中最下位です。政権が代わってやっとその「理想」に向けて一歩が踏み出せたという所です。

不登校・引きこもりの子ども達が12万人と言われています。また、子どもの貧困率が14.2%（厚労省10月発表）先進国中最悪です。子ども手当と高校の授業料の無償化が、教育をめぐる大きな困難を解決する一歩であることは間違いありません。（Y）

「守ろう平和・大切にしよう生命・9条を世界に！歌とお話の会」

1月23日(土)小川町図書館で、小川町九条の会「新年の集い」が開かれました。初めにハッピートレインさんによる「平和・命の賛歌」の演奏がありました。途中で東武の労働者の皆さんのコーラスも加わりました。続いて、「平和と命」と題して、お二人の宗教家の方にお話を伺いました。(以下にその概要を掲載します。原文は小冊子にまとめる予定です。)また、今回「大東文化九条の会」との共催も実現し、学生さんにもおいでいただき、貴重な発言を頂きました。最後に福引きもあり、楽しいひと時を過ごすことができました。

— 仏教の立場から —

臨済宗 全長寺住職 森田真隆さん

「平和」とは何か

そもそも「平和」とは何でしょうか？狭く捉えれば戦争がないこと、広く普遍的に捉えれば安穏・安寧であるということとなります。全ての人が平和を希望しています。にもかかわらず世界が平和にならないのはなぜでしょう。お釈迦様は世界は無明(無知)によって覆われているからだと言っています。二つの心(物欲・怠り)のせいで世界は光り輝かないのです。この物欲・怠りのせいで他者をいじめたり、差別したり、殺したり等の破壊的な行為に及びます。



どうしたら「平和」になるのか

ではどうしたらよいのか、お釈迦様は智慧(理性)を育てることと慈しみ(仲間意識)のこころを育てることにより、自分と他者の苦しみをなくしていくことができると説いています。生きとし生けるものは幸福を願っています。みんなの幸福を願ってみてください。そのような気持ちになったら加害できなくなると思います。大勢の人が住んでいるところに爆弾を落としたりミサイルを撃ち込んだりはできません。

そうは言いながらも、私の所属する臨済宗は、過去の太平洋戦争に於いて戦争に協力しました。このことは本来の仏教の道徳からは逸脱したものであったことをここに公表しておきます。

勇気を持つこと

常に慈しみの心を持つ努力(精進)をするのです。憎む心を生じさせない努力(精進)をするのです。これは強いてすべきこと(修行)なのです。時には周りから非難されたり疎外されたりする可能性もありますが、正しく生きる勇気を持つことが肝要です。

第四回「町民コンサート」から こんな素敵な演奏会が生まれました

高須さよ子さん(青山)

「ピアノとチェロのささやかな演奏会をひらかせてもらえませんか？」とお願いしたのは、昨年の9条の会町民コンサートが終わった直後のことでした。

町民コンサートはフルートにチェロ、歌曲、ピアノと贅沢な内容でした。生の演奏をたっぷり聞かせてもらって、それは心癒されるひとときでした。身近でもっと聞きたいーその気持ちがふくらんで、こんなお願いをしてしまいました。チェロの大塚さんとピアノの大導寺さんは、すぐに快諾して下さいました。

3ヶ月後の2月21日日曜日に「早春ミニコンサート」が小川教会の礼拝堂をステージに実現しました。大導寺さんはお兄さんの鍊太郎さんも加わってくださって、それは豪華な会になりました。ゆび使いが感じられ、トークもなごやかに、ピアノとチェロが響いていました。演奏者のみなさん、力添えをくださった皆さん、来場のみなさんに深く感謝です。



大導寺俊平さん
大導寺鍊太郎さん

大塚幸穂さん

有馬理恵さんの「おしばいとおはなし」

差別と戦争をなくすために

～ふるえるような怒りの奥底に、すぎるような生命の願いがあった～

5月16日(日)午後2時

パトリアおがわ



有馬理恵さんプロフィール

和歌山県生まれ。劇団俳優座所属。高校時代に「釈迦内枢唄(しゃかないひつぎうた)」(水上勉作、浅利香津代主演)を観て衝撃を受け、芝居の道へ。1999年より「釈迦内枢唄」をライフワークとして各地で上演。その数は420ステージを超える。日本平和委員会理事。4歳の息子の母。(チケット頒布¥1,000)